

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

鹿児島県長島町

1 はじめに

平成18年3月20日の旧長島町と旧東町の平成の大合併によって誕生した新『長島町』は、明治22年の町村制施行に伴い、長島郷が東長島村と西長島村に2分されてから117年ぶりに統合された結果、人口は12,548人（平成18年3月19日現在）、面積は116.19km²となりました。

長島町は、鹿児島県最北端に位置しており、4つの有人島（長島・伊唐島・諸浦島・獅子島）と大小19の無人島から構成されています。自然豊かで、歴史、文化、伝統のあるこの町は四方を東シナ海、八代海や長島海峡などの海に囲まれているため、漁業が盛んで日本でも有数のブリ産地として知られています。周辺の海域は、潮の流れが速く、この潮流が「美しく、美味しい身のしまったブリ」を育てます。

また、本町は、農業も盛んで赤土と温暖な気候で育ったジャガイモの産地としても有名で、鹿児島ブランドの指定を受けています。また、本町のさつまいもは、デンプン含有量が多く、青果・焼イモ用・焼酎用原料として重宝されています。その良質のさつまいもを使用し、伝統の技で、まるやかでコクのある本格焼酎「さつまい島美人」を作り上げました。そのおいしさは口コミで伝わり、今や鹿児島県一の繁華街である天文館で、1・2を競っています。

本町では、2年に1回町民全員がアーティストになる造形美術展が開催されています。杉の葉やススキ、ヒオウギ貝などの自然の素材、空き缶やペットボトルなどの廃材を使って制作した1メートル級・3メートル級・5メートル超級の力作が自治公民館や学校、PTA、各種団体などから寄せられて会場に並べられ、町内外から訪れる入場者の目を圧倒しています。また会場では、長島町の特産品の販売も行われ大勢の観光客で賑わっています。

2 長島町消防団の沿革

長島町消防団は、平成18年3月20日2町の合併に伴い、新に1本部、11分団、33班で構成され、団員定数335人で発足しました。平成19年に消防団定数の見直しを行い、団員定数を295人に改正し現在に至っています。

平成21年4月現在の消防団員平均年齢は37歳です。因みに平成20年4月1日現在の消防白書によれば、全国平均は38.3歳であり、当町の消防団員は、全国の平均年齢より1歳強若く、元気に満ちた新進気鋭の団員から経験豊富な団員まで幅広く在籍しています。

日頃から長島町民の安心・安全のためにポンプ操法訓練や警防訓練などに熱心に取り組んでおり、日夜消防の技術や知識の向上に努め活動

しています。また、地域活性化のために集落の行事や、町の行事等にも積極的に参加し、町の発展のために様々な努力をしています。

3 消防団員安全管理セミナーを実施した経緯

前述のとおり本町消防団は、地域住民の安全を守るために日頃から警防訓練・操法訓練等を実施しており、年に1件程度は、公務災害に該当するかどうかの事案が発生しています。

また、その中には事故発生には至らなかったものの、現場活動や訓練等で「ヒヤリ、ハット」しそうな事故につながりかねない行動が多数見受けられました。

因みに、今年度（平成21年10月末日現在）は、公務災害に該当する事案は、発生しておりません。

一家の大黒柱が、操法訓練や警防訓練で負傷したり、本職の仕事に支障が来たしたりする状



会場入口

況は、今後の消防団の運営や新規消防団員の入団募集にも影響を来すものと考えられます。

特に、安全管理に関しては徹底しなければならないと考えてきました。各種の行事や、訓練を実施するときには注意を促していますが、公務災害をゼロにすることは大変むずかしいことです。



安全管理セミナー会場風景

そこで、県総合事務組合と消防基金共催の研修会等でご紹介のあった公務災害防止のための研修を活用して、消防団員の安全管理の重要性をさらに認識してもらう機会を増やしていこうと計画しました。

4 消防団員安全管理セミナーを実施して

そこで、平成21年9月6日に消防基金のS-KYT指導員である福井講師を招き、講師の指導のもとに、「消防団員安全管理セミナー」を実施しました。この消防団員安全管理セミナーを長島町消防団員の約半数の152人が受講し、福井講師の講演に熱心に耳を傾けておりました。

消防団員安全管理セミナーでは、公務災害事例を交えながら事故発生のメカニズムや健康管理による予防策、事故発生後の対応策について約90分の講演が行われました。参加者の関心も高く、消防団員安全管理セミナー終了時に実施したアンケートには、安全管理・健康管理の大切さを再認識したとの意見が多数寄せられました。

また、操法訓練中の事故の多さに驚き、今後の訓練方法についても再考するよい機会になりました。

5 今後の取り組みについて

本町では、消防基金による公務災害防止のための研修を、今回初めて実施しました。

参加した団員が新しい知識を各分団に持ち帰り、今後の安全管理について分団内で話し合いがもたれたようです。安全管理は、事故防止について意識を高めるとともに、あわせて、健康管理に留意することで、ひいては公務災害を防止するための方法と考えられます。

したがって、定期的に新入団員研修会や幹部研修会を実施しながら安全管理の重要性を十分周知し、安全管理講習を実施することを検討しています。

今後も基金の支援を受け、公務災害防止のための研修などを実施し、安全管理に取り組んで行きたいと考えております。



熱心に受講しているセミナー参加者